

「自然は飛躍しない」

田垣住雄

ケンブリッジ大学のアルフレッド・マーシャルという経済学者の経済論の冒頭に「自然は飛躍しない」という一句がある。

これはライドニッツの言葉だそうだが、なぜ経済論に自然は飛躍しないなんて、書いたのである。

現代のめまぐるしいスピード時代では、みな走っているし、なんでも急いでいる。スピードがなければ進歩でないよう気持で、つっぱりしているから、時間をかけて一步歩積み重ねていくようなことは、誰もあまり振り向かないし、関心も湧かない。

白か黒かまだはつきりしないものさえ、急いで白か黒に割り切って、めくらめつぱうにつっぱしるのが、革新的な方向であると考えて、急がなくともよいことまで急ぐし、急いではならぬここまで急ぐような有様が、現代の様相である。

人間だけが急いでも、大きな現実はいつも昔と同じように動いている。一年は毎年三六五日で廻ってくるし、春夏秋冬のうつりかわりには変化がない。生物はこの不变の循環に応じて進化し、そこからダウイーンの進化論が生まれたわけだが、カルチニア（文化）はこれを根拠にして開け、経済もそこから発祥した。自然は飛躍しないと

いうことは、文化、経済に通ずる原則としてアルフレッド・マーシャルが経済論の冒頭句にしたのである。

昔から光陰矢の如しといつて、年の廻り応じてうつりかわる文化経済の変遷や人生の推移を追憶して、一步一步踏みしめて積み重ねてゆくことを大切にしたが、近頃のスピードイヤカルチャでは、誰も歩いていない人がなく走り通して、足もとがあぶなく全く空をゆくように感ぜられる。

月の世界へ行くことや、宇宙を旅行することが、何の役にたつかも考えずに、それが科学の進歩だと感心しているが、このようないことに年に二〇～三〇億ドル金を使うのが、一体どんな意義があるのか、人間にとつてどんな意味があるか、ということさえ判断せずに、ただ感心しているほど、空虚な考え方になっている。

アイゼンハワーの科学顧問をしていたキリヤン博士は、「つまらないやないか、あんなものに金を使うのなら、それほどの金額で貧乏な後進国を援助して、まだ残っている地球上の未開発地を開発した方が増しだ」といつていて。このように有識者達は、そんな宣伝的なつまらんことより、もつと

身近な地球開発の方が良いと考えているから、こんな宣伝的な科学表現には、あまり感心していない。「自然は飛躍しない」という言葉は、しみじみ味わってみると、味の出る深い幽玄な意味がある。

播かぬ種子は生えぬ

所得倍増しという言葉も、決して空をゆくものではなく、この所得の飛躍は積み重ねた生産力の倍増から起るものであって、スピードだけで飛び上がるものではない。とくに農業のように自然を対象とする

人達には、草の種子を播くとか、草を栽培する花火のような文化経済を追っかけている

近頃の文化経済には花火式のものが大げてみたところで、直ぐ消えてしまうだけでは、お祭験になってしまっても、文化経済の進歩にはならない。

花火のよさ文化経済を追っかけている

◇表紙写真 サイロと冬の陽を浴びる乳牛（上野幌育種場）
◇自然は飛躍しない。
特 今後活用したい飼料作物

東北・北陸地方……菊池修二・六
北海道地方……三浦梧楼・八
高野定郎・一〇

◇寒冷地の冬季飼料給与の注意……
◇青刈玉蜀黍と青刈大豆の交互耕栽培の一例……水島 隆・三

◇蔬菜・新年度の作付対策と品種のとりあげ方……中原忠夫・五
◇スイス型酪農方式の採用……

牧草と園芸 二月号 目次

良をして、苦心と忍耐とを積み重ねてこそ、一步一歩倍増しに近づくのであるし、たとえ種子が良くなっても畑がそれに応じて培養力を積み重ねなければ倍増しにはならない。播く面積を拡げて多くの種子を播くか、または面積があまり拡げられないなら良い種子を作つて播くか、いずれかを積み重ねて、はじめて倍増にでも数倍増しにできる。自然は飛躍しないから、このような良化も飛躍し難い事業ではあるが、一步一歩

需要によつて成り立つから、草業的な産業としても、世界各国及び我が國の一部に成立しているが、これをさらに乳肉産に転換すると、一キのエネルギー値が六〇〇〇～一万カロリーになつて、標準石炭六〇〇〇カロリー、標準石油一万カロリーと全く同じ生産値になる。

従来の農業では

従来の農業では、一キロのエネルギー値が
木材三、〇〇〇と四、〇〇〇カロリー、澱粉
四、〇〇〇カロリー、糖六、〇〇〇カロリー
くらいであったが、乳肉ではより高度の石
炭、石油に匹敵する食料エネルギー値を持
つ高級食料生産に進むのだから、食料生産
の文化経済を一躍進する。

薪炭から木炭、木炭から石炭、石炭から
石油に向って、エネルギー進化が進められ
たが、この燃料進化漸進的過程を示す年代
を経て進めたのであるから、澱粉から糖類、
糖類から脂肪、蛋白質など乳肉へと食料進
化を進めるにも、やはり相当の年代を重ね、
基盤を積み重ねなければならないのは当然
である。

わが国も漸く燃料エネルギーに準じて、
食料エネルギーをも、高度な文化経済水準
に向って推進する機運が、きざしはじめて
きたのであって、石炭、石油の需要を満たす
に、産業構造の改革が勃興し、燃料資源開
発に次いで食料資源開発が必須の事業とし
て抬頭してきたわけである。

から、まだ農業体質を改善するほどの投資は行なわれていないところに、その進度もきわめて遅々たるものがある。そのような僅少な投資にかかわらず、この投資さえ満足に消化し切れないような受入体制であつて、石炭業の開発のような活発な受入体制が整つていないところに、投資を活発に進め難い情勢が低迷している。

自然は飛躍しないという言葉は誠に農業経済にふさわしい文句であつて、工鉱業のように飛躍できない真諦が農業に見出される。この文句はすべての経済を含んでライニッッサが唱えたのであろうが、カルチニアのアグリカルチュアにおいては、とくに玩味すべきものであつて、スピードアップの至難さが農業経済の本質である。そしてスピードアップは至難であるが、消尅的な花火文化と違つて、最も堅実でありまた最も重要な人生保持また本質的使命を持つ文化経済政策であることを認識し、進化の過程を一步一歩踏み固めなければならない。

うまいめしが食えるかどうかということが、結局の問題を支配するのだから、いかにスピードアップしても、安心して生活ができなければ、それは文化経済の向上安定ではない。終戦以来共産圏から自由陣営に逃げ出した人間は、東ドイツから西ドイツへ四〇〇万人、中共から流れ出たもの約三〇〇万人（香港だけで一〇〇万人）、チベットからインドへ三~四万人、キューバから毎週一、二〇〇〇人、その他を合計すると約一、五〇〇万人が共産天国から逃げ出している。これに対して自由陣から共産圏へ逃げ出した者は、よくわかつてないが、とてもこんな多數にはならないことだけは、はつきりしている。このような人間の流動

状態からみると、共産天国よりも自由園にまだ魅力があるようであって、俄かに革命によって飛躍した共産の経済圏では、どうも住み心地が良くないようであって、文化経済は飛躍できないということが表現されているようである。

雪たねニュース

牧草サイレージ給
与によつて乳脂率
が低下するか

冬期飼料として欠くことのできない牧草サイレージ、夏季、貴重な青刈作物貯蔵としてのサマー・サイレージは共に高栄養飼料として盛んに利用されていますが、往々にして「牧草サイレージを給与すると乳脂率が著しく低下した」ということを耳にすることがあります。

薪炭から木炭、木炭から石炭、石炭から石油に向つて、エネルギー進化が進められたが、この燃料進化漸進的過程を水い年代を経て進めたのであるから、澱粉から糖類、糖類から脂肪、蛋白質など肉へと食料進化を進めるにも、やはり相当の年代を重ね、基盤を積み重ねなければならないのは当然である。

わが国も漸く燃料エネルギーに準じて、食料エネルギーをも、高度な文化経済水準に向つて推進する機運が、きざしはじめてきたのであって、石炭、石油の需要に準じて、乳肉の需要が急激に増してきたところに、産業構造の改革が勃興し、燃料資源開発に次いで食料資源開発が必須の事業として、抬頭してきたわけである。

が、結局の問題を支離するのだから、いかにスピードアップしても、安心して生活ができなければ、それは文化経済の向上安定ではない。終戦以来共産圏から自由陣営に逃げ出した人間は、東ドイツから西ドイツへ四〇〇万人、中共から流れ出たもの約三〇〇万人（香港だけで一〇〇万人）、チベットからインドへ三~四万人、キューバから毎週一、二〇〇人、その他を合計すると約一、五〇〇万人が共産天国から逃げ出している。これに対して自由圏から共産圏へ逃げ出した者は、よくわかっていないが、とてもこんな多數にはならないことだけは、はつきりしている。このような人間の流動

してみると、目標にはあまり切りがたいの
であつて、根本は文化経済を飛躍的に革新
するか、自然は飛躍せずという原則によつ
て漸進しているかに過ぎない。だから自然
に反して革命をやるか、自然に添つて漸進
するかが山であつて、決して白と赤かに割
り切れるものではない。それなのにスピーチ
だけを文化だと考える者達は、これを割
り切つて一方的な考え方になるから、その
反動として住民が安住生活を求めて流れ出
すようなことになる。

スピードアップは人命にもかかわる出来事の多いことが、毎日新聞紙上やラジオ、テレビで放送されていることを思うと、決して人間らしい生活への文化経済そのものではない。革命もこれと同じ内容を持つものであって、全人類の福祉を穩便に進める手段ではなさそうである。

革新はやはり文化経済の進化方則によつて、自然は飛躍せずという原則にそつて、一歩一歩前進することが必要であろう。

ものを給与すると乳脂率の低下が現わ
れると報告し、乳酸醣酵の十分な牧草
サイレージでは全く乳脂率の低下は考
えられなく、むしろコーンに比し、栄
養含量の多いものだけに、乳量、乳脂
肪の増加が著しいものであるといい、
更に塔型サイロにコーンと牧草を切り
込んだ場合、その切り込みの境界面は
概して変質し易く、給与に際してはと
くに注意を要すると結んでいる。